



# TC 吉田恒の為替レポート

FINANCIAL RESEARCH

米ドル・ユーロ・円などの主力通貨に関して、幅広い取材活動と豊富な過去データの検証に基いて書かれたレポートです。

「FXオープン・レポート」(7/2)

## 7月ドル高の「落とし穴」

(株)T&Cファイナンシャルリサーチ 代表取締役 吉田 恒

7月が始まった。7月のドル円は、経験的には最もドル高・円安になりやすい。ただそんなドル高は比較的小幅にとどまることが多く、一方で数少ないドル安は大幅になることが多かった。

### ◆ドル高は小幅、ドル安なら急落リスク

1995年以降の14年間についてドルの対円騰落状況を調べたところ、7月は11勝3敗。これは1月の9勝6敗を上回り、最もドル高・円安になったことが多かった月である。

ただそんな7月のドル高は、意外に小幅なことが多かった。2000年以降の7月ドル陽線(ドル高)幅は平均1.37円。これに対して、2000年以降でドル陰線(ドル安)となったのは2007年の1回だけだったが、このドル陰線幅は4.54円もの大幅だった。

また、99年以前の7月ドル陰線引けは、96年と99年だったが、それぞれの陰線幅は2.81円、6.55円でこれも大幅なものだった。

以上からすると、7月はドル高になりやすいが、その場合は小幅にとどまり、確率は低いもののドル安になった時は大幅なものになるといった傾向がありそうだ。小幅のドル高か、それともドル急落が起こるのか、それが7月相場の焦点となる。

### ◆ベアマーケット・ラリーの正念場

一方日経平均株価は、3-6月にかけて4ヶ月連続の上昇となった。JPモルガン証券・北野氏のレポートによると、いわゆる「ベアマーケット・ラリー」で上昇相場が5ヶ月続いたことはないという。

その意味では、もしもこの7月も株高となるなら、これはいよいよ弱気相場の中の一時的な反発、「ベアマーケット・ラリー」ではない可能性が高くなるだろう。「ベアマーケット・ラリー」かどうかの最後の見極め所がこの7月といえそうだ。

ただ一般的には、すでに「ベアマーケット・ラリー」といった見方はかなり少なくなっているのだろう。「ベアマーケット・ラリー」での株高は、上述のように4ヶ月続いた例もあったが、それはあくまで最長のケースであり、8割方は2ヶ月以内に株価反発一巡となっていたようだ。

その意味では、株高が5-6月以降も続き、連騰記録が3ヶ月以上になってきたところで、すでに弱気相場は終わり、強気に転じたとの見方が一般化し始めていると思われる。

また、私は、短期の行き過ぎを点検する90日移動平均線との関係から、こんな見方もしている。今回は、6月上旬にかけて90日線を日経平均が18%も上回った。これは経験的にはかなりの短期上がり過ぎの可能性を示すものだ。

**T&Cファイナンシャルリサーチ 代表取締役社長がお届けする週2レポート(毎週月・木曜日更新)**

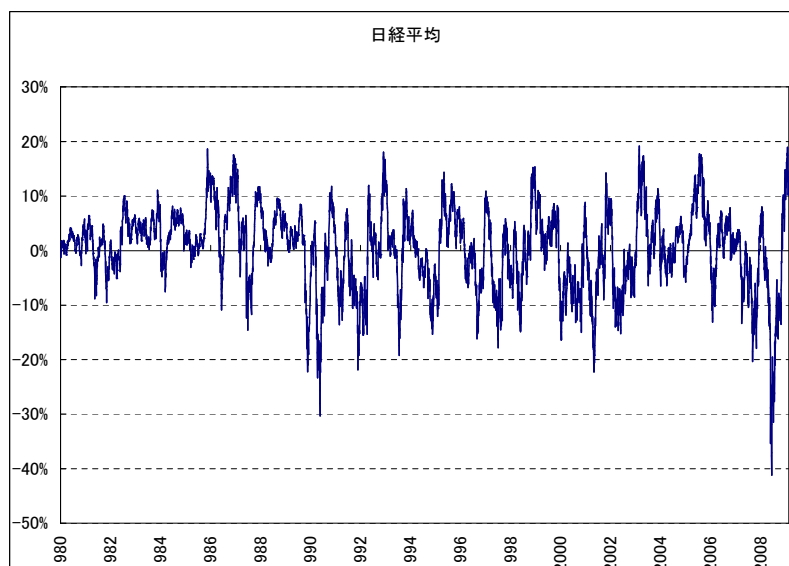
# TC 吉田恒の為替レポート

FINANCIAL RESEARCH

米ドル・ユーロ・円などの主力通貨に関して、幅広い取材活動と豊富な過去データの検証に基いて書かれたレポートです。

ところで、同じように、90日線を18%前後も上回ったのは、86年3月、87年4月、93年4月、2003年7月、2006年1月など過去20年間でも6回しかない。その意味では、かなり短期上がり過ぎ懸念が強いといえるが、いずれにしてもこの6回はすべて強気相場の中で起こっていた。

短期の行き過ぎは、長期トレンドと逆行しないのが基本のようだ。その点からも、今回日本株が短期上がり過ぎ懸念を示していることで、長期的にはすでに底を打った、つまり上昇トレンドに転換した可能性は高いと思う。(了)



出所: BloombergよりT&Cファイナンシャルリサーチ作成

アイ・トレードFX(株)が本ウェブサイトに掲載する情報には十分に注意を払っていますが、その内容について保証するものではありません。本情報に記載された内容は、資料作成時点においてのものであり、予告なく変更する場合があります。また本サービスは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や投資対象、価格選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。本情報に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社は、理由の如何を問わず、責任を負いません。